

お国自慢



新明和工業(株)

遠賀・中間地域広域
行政事務組合

遠賀・中間地域における リサイクル施設併設型中継施設 (廃棄物運搬中継・中間処理施設)

1. はじめに

遠賀・中間地域広域行政事務組合（福岡県：中間市、水巻町、岡垣町、芦屋町、遠賀町）は、福岡県の北部に位置し北九州市圏の住宅都市として約15万人の人口を有しております。同組合にて発生する可燃ごみは、平成元年竣工の岡垣清掃センター（130t、65t/16h×2）にて処理されております。しかし稼働年数が18年経過し、新施設の建設が課題となっております。

した。同組合では、循環型社会形成推進地域計画の策定を行い、福岡県北東部拠点都市地域の一員として中核都市である北九州市と一体となった資源循環型社会都市圏の構築を進めております。リサイクル施設併設型中継施設（廃棄物運搬中継・中間処理施設）を新たに整備し、焼却処理を北九州市に委託した広域処理を平成19年4月より実施予定です。

施設の概要

所在地 : 福岡県遠賀郡岡垣町大字糠塚字友田 103-1 外
 建築概要 : 鉄筋・鉄骨コンクリート造
 4階建て、延べ床面積 9,808 m²
 処理能力 : 可燃ごみ 199t/5h、
 不燃・粗大ごみ 24t/5h



- (1) 受入供給設備
 ごみ計量機 : 3基
 ごみピット : 可燃ごみ用 約 2,990m³、
 粗大ごみ用 約 720m³
 ごみクレーン : 2基
 可燃性粗大ごみ前処理装置 : せん断方式 1基
- (2) 圧縮・詰込設備
 コンパクタ : 2基
 18m³コンテナ : 14基
 10tコンテナ運搬車 : 7台
- (3) 移動設備
 コンテナ移動設備 : 1式
- (4) 破碎設備
 粗破碎機 : 二軸低速せん断式 1基
 回転式縦型破碎機 : 1基
- (5) 選別設備
 磁力選別機 : 1基
 トロンメル : 1基
 風力選別機 : 2基
 アルミ選別機 : 1基
- (6) 再生設備
 金属圧縮機 : 1基
- (7) 貯留・搬出設備
 鉄・アルミ・不燃物バンカ : 各 1基
- (8) 集じん脱臭設備
 可燃用・粗大用 : 各 1系統
- (9) 排水処理設備 : 1式

2. 施設の特徴

本組合にて整備中の施設は、全国で初めて破碎選別施設を併設したリサイクル型の中継施設です。本組合で収集される可燃ごみは、中継施設のコンパクト（圧縮装置）にて圧縮減容処理

を行い大型密閉式コンテナにて北九州市の焼却場に運搬され処理されます。粗大ごみも中継施設に搬入し破碎選別処理後、資源回収を行い可燃残渣は可燃ごみと同様の処理が施されております。

中間市周辺の紹介

〈中間市〉



筑前中間川まつり

中間市は、福岡県の北部に位置し、北九州市と遠賀郡、鞍手郡に接しています。市の中央をちょうど南北に一級河川の遠賀川が流れていることから、市域は通称「川東（かわひがし）」と「川西（かわにし）」に分かれています。

川東は北九州市側で、住宅地と商業地などを形成し、市の人口の9割が集中しています。

また、川西はほとんどが農耕地ですが一部に市の振興方針による工場団地が立地しています。

遠賀川は中間市のちょうど真ん中を流れる市のシンボル。それだけに市民の憩いの場となっています。河川敷を散歩する親子連れや、ジェットスキーを楽しむ若者、グラウンドでスポーツに興じる子どもたち。また、ルアーフィッシングの名所だけあって釣り糸を垂れる人の姿も多く見かけます。

〈水巻町〉

遠賀平野は遠賀川の上流から運ばれた土砂と、響灘から吹き付ける風により形成されたものであり、各地に縄文・弥生式土器などが分布しています。遠賀川の中州に広がる立屋敷遺跡

は、昭和6年に弥生時代の土器や農具・住居跡が発見され、稲作文化の発祥地として知られています。立屋敷の八劔神社に合祀されている保食神社の棟札に、「保食宮は昔、水巻宮と称す。水巻は、地名にして水の巻く意なり」と記されています。水巻山にあった戸長役場を村役場に改称して、役場の所在地の名をとって水巻町となりました。



遠賀川の堤防沿いに大きな看板があります。これは、現在遠賀川の河川内に水没している立屋敷遺跡の案内板です。

立屋敷遺跡は、昭和6年（1931年）に発見された弥生時代の集落遺跡です。特に、文様のある弥生式土器は、九州ではこの立屋敷遺跡ではじめて発見されたもので、稲作文化の伝播ルートを考える上で、当時の学界の注目を集め、遠賀川式土器と呼ばれ、弥生時代前期に位置づけられました弥生時代後期のものでこの時期が集落の最も栄えた時であったと考えられます。今もなお川底や岸辺の砂中に眠っていると噂される無数の土器。人々はこの土器を手は何を語り、どんな生活を送っていたのでしょうか。

〈岡垣町〉

自然の風土を表す砂の「岡」。そして人々が生活し、防風林として誕生した松の「垣」。このふたつの言葉が合わさった岡垣は「小高い砂丘に松を植えた人々が住む町」。まさに人と自

然が一体になった町名だと言えます。

博多と関門を結ぶ陸・海の交通の要所として、また、豊かな自然を活かした農作物の産地として、日本の歴史と共に歩んできた町。岡垣町はその名のとおりこれからも豊かな自然と共に歩いていく、そんな町でありたいと思います。



ゆうれい坂

空き缶がひとりで坂をのぼるミステリーロード。国道495号線から成田山不動寺に向かって道を

登っていくと、この不思議な坂が存在します。目の錯覚？・・・

一度試してみたいはいかがですか？(ゆうれいはできませんのでご安心を)

実は、緩やかな登り勾配なのですが、そのすぐ先が急な上り坂であるためにまるで下っているように見えるのです。

〈芦屋町〉

福岡県の北部に位置する芦屋町は、東を北九州市に隣接し、響灘を望む遠賀川の河口に広がる町です。

町の中央部を流れる遠賀川を挟んで両極端な海岸線は、東側は奇岩景勝の磯を形成し、西側は白砂青松のなだらかな海岸となっています。いずれも多くの観光客を集め、北九州都市圏の



海洋レジャータウンとなっています

航空自衛隊芦屋基地は、毎年、開庁記念行事として航空祭を開催しています。開催日や行事はその年によって少し変わりますが、航空機やブルーインパルス飛行展示、ペトリオットや航空機などの地上展示もあります。また、音楽隊の演奏や装備品の展示、その他各種アトラクションもあり、一般の人々との交流、交歓があります。

〈遠賀町〉

昭和4年4月1日、島門村と浅木村が合併して遠賀村が誕生しました。その後昭和10年代の石炭景気によって、遠賀村の人口は合併時の2倍近くまで増えて、昭和39年4月1日、遠賀郡では最後となる町制を実施し遠賀町となりました。

昭和37年からの炭鉱閉山により、人口は一時的に減少してしまいましたが、昭和44年遠賀町全域を都市計画区域と定めて、これ以後、土地区画整理が進められ、更に民間開発も行われて多くの住宅地ができ、「緑と自然」を背景にした町づくりが進められてきています。

平成15年10月中旬から農業生産者に協力をお願いして、遠賀町全体で約140ha(ヤフードーム約8個分の面積)の水田にれんげ・菜の花の種子を蒔いて展示開花をお願いしております。

遠賀町の基幹産業は農業であり、その自然を生かした町おこしの一環でもあり、現在ではJR九州遠賀川駅の協力で毎年開花の時期に、れんげ・菜の花ウォーキングを開催していただいております。



れんげ畑で遊ぶ子ども達